

始良市総合計画審議会 会議録

会 議 名	第 2 回始良市総合計画審議会	
日 時	令和 8 年 7 月 31 日 (金) 午前 10 時 00 分	
会 場	始良本庁舎 3 階 大会議室	
出 席 者	委 員	会長、委員 18 名、欠席者 1 名
	市職員等	市長、企画部長、企画政策課長、企画政策係長、 企画政策係 2 名、(株)九州経済研究所 3 名
会 次 第	1. 開会 2. 議事 3. その他 4. 閉会	
議 題	(1) 第 3 次始良市総合計画基本構想 (案) について	
会 議 結 果 要 旨	(1) 第 3 次始良市総合計画基本構想 (案) について ・事務局案のとおり概ね了承	
会 議 経 過 要 旨	1. 開会 米丸市長よりまちづくりへの思い (将来像) の説明 2. 議事 (内田会長) 今回から、総合計画の中身の審議に入る。 今回の審議内容は、総合計画の骨格となる基本構想である。 (1) 第 3 次始良市総合計画基本構想 (案) について (事務局) 前回の審議会でもいただいた質問の回答説明 第 3 次始良市総合計画序章素案について、資料に基づき説明 (内田会長) 質疑の前に、事前質問等を受けておりましたので、回答があれば事務局から説明を求める。 (事務局) 事前質問について資料に基づき説明 (内田会長) ほかに質疑や意見等はないか。 — 質疑なし (事務局) 第 3 次始良市総合計画基本計画素案について、資料に基づき説明 (内田会長) 質疑の前に、事前質問等を受けておりましたので、回答があれば事務局から説明を求める。 (事務局) 事前質問について資料に基づき説明	

(内田会長)

ほかに質疑や意見等はないか。

(駒倉委員)

人口ビジョンについて見解を確認したい。例えば重富小は児童数が増えているが、今後宅地開発ができる余地は少ない。三船小周辺も農業振興地域がかかっているので、宅地開発は困難を極める。宅地造成の観点から、これから先どれくらい開発できるかを考えた上で、生産人口増を見込まれているのか。

住宅以外にはマンションが考えられるが、80～120世帯程度にしかない。それも加味しても、人口維持は難しいのではないかとと思われる。それに対する施策をしっかりと考えないといけない。

(事務局)

宅地は頭打ちになっていると考えている。ひとつひとつの家庭でいえば、子どもが就職で出ていく家庭もあって、帰ってくる可能性も考えられる。その環境づくりを整えていくなど、選ばれる始良市としてのまちづくりを考えて施策を打っていきたい。基本計画にも盛り込んでいきたい。

(野口委員)

ビジョンはとてもよい。しかし具体的にどうなっていくのかを考えなければならない。自然を壊した開発には反対。施策として、始良市の課題である空き家をどうにかしてほしい。1歳～18歳までの子どもを育てる地域を設定するなど、そういう応援をしていかないと人口減少は防げない。市の考えをお伺いしたい。

(事務局)

現状の地盤だけでは限界がある。空き家に対する施策も必要だと考えている。移住・定住の促進にもスポットを浴びせて実施計画を強化していきたい。

空き家関係については、移住・定住の関係で、中山間地域は新築・中古住宅の改修の補助金がある。西始良小校区が合併してから100人児童が減っていることを受け、今年の4月から移住・定住の補助金枠に加えている。空き家対策として、市内全域に向けた助成・補助を考えていく時期になっていると考えている。住むことができる空き家を改修して、人を呼び込む施策をしっかりと検討していきたいと考えている。

(内田会長)

満足のいく方向性を示してほしい。10年経てば3件に1件は空き家になるといわれている。掘り起こしされているところをうまく活用していただきたい。手放さない人も多いので、うまく行政が橋渡しして、頑張ってもらいたい。他に意見はないか。

(島村委員)

基本理念における将来像「健やかさを力に、始良の未来をひらく」について提案したい。「健やかさ」というのは人間の基本で、健康でなければどんなこともできないので、いちばん大事だと考える。そこに「豊かさ」を付け足したい。自然、教育、文化、農業といった、伝統的な「豊かさ」があるので、追加を提案した。

(内田委員)

この場でお話ししたい。提案に対して、意見はないか。

(委員)

異議なし

(内田委員)

それでは、始良市の将来像は「豊かさ」を加えた、「健やかさと豊かさを力に、始良の未来をひらく」とする。他に意見はないか。

(尾崎委員)

施策の大綱「2. 自立と共創の地域づくり」について意見を述べたい。私が住んでいる地区では、以前は知らない人でも挨拶をしていたが、今は小中学生の声しか聞こえない。転入してきた方に挨拶しても見てくれない状況がある。時代の風潮もあるのかもしれないが、地域への愛着や誇りを育むにはどうしたらいいかと日々考えている。自分から挨拶するようにしている。

また、「防犯」という言葉がでてきていないが、詐欺集団が下見に来るときに、井戸端会議や挨拶をしている場所だと、コミュニティがしっかりしているため、狙いにくいと聞く。基本は顔見知りになって、一声交わすことが一番大事だと思う。「空き家」も防犯の観点でいえば、空き巣問題がある。防犯対策にも費用がかかる。街灯の問題もある。「5. 安心して暮らせる環境づくり」の中に「防犯」を入れてほしい。高齢者から「いろんなニュースを見て怖くて眠れない」「体調を崩す」といった声もあり、「4. 心身ともに健やかな暮らしづくり」にもつながるのでぜひ検討してほしい。

(事務局)

「防犯」に関して、いろいろな地域で危険な状況を私たちも耳にしている。「2. 自立と共創の地域づくり」では、コミュニティが様々な活動をしてくださり、尽力いただいている。そうしたなかで、地域のつながりは徐々にできているものと考えており、強化していきたいと考えている。「防犯」のワードについては、「5. 安心して暮らせる環境づくり」の項目に入れている。

防犯灯については、第2次総合計画で通学路の防犯灯のLED化を行っている。令和7年度からは自治会と自治会の間についても、部活動帰り用に防犯灯設置を行っている。実施計画で取り組んでいるので、暗いところがあれば自治会長を通じてお伝えしてほしい。市が随時対応したい。

挨拶については、17校区のコミュニティ協議会で企画提案型のまちづくりを進めていただいている。重富校区が先進的で、子どもからお年寄りまで参加する通年事業を実施している。野口委員からも補足説明をお願いしたい。子どもからお年寄りまでの交流は校区によって実施されているので、ご確認いただきたい。

(尾崎委員)

理解しているが、近所では街灯が設置されないと聞いている。また、自治会に入らない人も増えている。奉仕作業があっても参加しないため、なかなかコミュニケーションがとれず、難しい。

(野口委員)

やり方次第だと思う。強制すると逃げていく。どの地区でも奉仕作業があるが、罰金制度がある地区もあって「やめなさい」と言っている。働いていてなかなか出れない人も多いので、地域で時間がある人が補っていかないと、他所を向いてしまう。

私の自治会は網羅しているので、コミュニティ協議会でも研修会を年1回行い、「こういう地域もある。地域の人が住みやすい地域をつくっていきましょう。」とお話している。まだ、コミュニティが発足して12年しか経っていないので、行き届いていない部分があると思う。12年間会長をしながら、少しずつ努力しているが、(校区には)それぞれのお考えもある。

また、始良市は296自治会あるが、加入率は約83%で、他市町村に比べれば加入率がよい。入らない人が目立つだけなので、悲観になる必要はないと考えている。

今、重富校区は煮しめづくりなどの夏休みの学習講座をコミュニ

ティの活動資金の中でやっている。それが口コミで広がって、重富に学校は行きたいという人が増えている。そういうことをすることで地域活力が生まれてくるのではないか。今、重富校区がしていることを全部しなさいというわけではないが、ひとつでも地域と一緒に活動したらいい。それが「人づくり」にも結び付いていくのではないかと考えている。

8月3日から講座が始まるので、ぜひ来ていただければ活動内容も見えてくると思う。

(尾崎委員)

ありがとうございます。頑張りたいと思う。

(内田委員)

お知恵を借りながら、頑張りすぎないようにして、頑張りたい。 「防犯」については事務局からも説明があったように、「5. 安心して暮らせる環境づくり」の「生活安全性の向上」にまとめられているとのことなので、活動の後押しとなってくと思う。他に意見はないか。

(山之口委員)

施策の大綱についてのポイントについて2つ提案したい。

まずは市民アンケートとの整合性。交通環境（渋滞）、防災、安心して住めるまちになってほしいという意見が一番多かったが、反映されているか。次に始良市の良さ（人柄、治安がいい）が反映されているか。さらに、その2点のバランスがきちんととれているかを検証した。

その結果、官民一体となり、住む人が幸せに暮らすために、最終的に行き着くのは「社会資本・インフラ」である。先日の地震でも1日でインフラが停滞したように、DXやコミュニケーションでは限界があると思う。団地ができて、ネットワークがきちんとつながっていないと、衰退し、将来的な発展は見込めない。特に始良市は昨年災害にあって、ライフラインの脆弱性を体験しているにも関わらず、この計画からは危機感が感じられない。第2次基本計画と同じく、一般的な表現で文面が変わらない。例えば「抜本的に推進する」というような文言がひとつもないので、入れてほしい。地震は避けられないが、豪雨災害などハード面でのリスク管理はできるはずである。8年間を見据えて、基本構想のなかに入れこんで、皆が幸せになるような施策が大事だと思う。

「災害に強いまちづくり」は抽象的な表現であり、前回の計画と文言が全く一緒である。羅針盤である方向性のなかで過去の出来事も踏襲しつつ、ミッシングリンクの解消など、人々が末永く暮らすためのまちづくりや生活にも必要なことを考え、戦略的な構想と強い意志をここで示す必要があるのではないか。

「5. 安心して暮らせる環境づくり」において、国で行う施策は国でいいが、市で行う施策は地道に進めることが、将来の子ども達や若い人の幸せなど、住む人たちがこれからも幸せに暮らす源泉となるのではないかと考えている。

(事務局)

私たちも気持ちは同じだと思っている。強い意志表示をした表現については、「抜本的」などの表現も含めて文言を検討させていただきたい。そのほか、今日いただいたご意見については、会議のなかで、各部長・市長と協議させていただき、次回の第3回審議会までに修正したい。

(野口委員)

基本理念の「まちづくり」「ひとづくり」の部分で、行政にお願

	いがある。市の職員の方が地域にどれだけ出ているのか。いろいろな団体もあるが、全く市の職員が顔を出して、汗を流してしている姿を見ない。市長にも、市の職員も地域に出して、地域の方の意見を吸い上げて、それを共有することが、始良市が一番よくなる方法ではないかとお伝えした。 活動されているところに情報があると思うので、そこに市の職員として顔を出して、どういう仕事をしているのか、どういうつながりがあるのかを知って、施策を進めていただければと思う。それが、始良市の住みよさにつながる。この意見についても共有いただきたい。 (内田会長) ほかにご意見はないか。 (浅井委員) 基本計画として、市の現況、財政状況、社会情勢や、市長の所信表明にも「行政運営」というフレーズが入っているが、「持続可能な行財政運営」の取組がないと見ている。行政側の立場の取組についても入れてよいのではないか。 (事務局) 行財政運用については、「２．自立と共創の地域づくり」の説明文のなかで触れている。ご指摘があったところについては、基本計画のなかで触れさせていただきたい。 (内田会長) ほかにご意見はないか。 (丸野委員) ２点要望をお伝えしたい。今回の計画では「ウェルネス」という言葉がたくさん出ている。「健康」というのは、WHOの定義のなかで「体が健康」「精神的に健康」に加えて「社会的にも健康」が言われており、孤立が問題視されている。基本理念のなかで「孤独・孤立」の文言が入れられないだろうか。不登校、引きこもりが増えており、身寄り問題もある。総合計画の全体の中にも入れたほうがよいのではないか。 施策の大綱「４．心身ともに健やかな暮らしづくり」で、「誰もが住み慣れた地域で安心して・・・」とあるが、社会福祉協議会でも地域福祉計画を策定し審議をするなかで、「住み慣れた」という言葉が引っかかってしまう。始良市は移住する人も多く、外国籍の方も増えてきている。「住み慣れた」という表現は省き、「誰もが地域で安心して暮らせる」でもいいのではないか。 (事務局) 検討させていただきたい。福祉部でも地域福祉計画を策定中なので、ご指摘があった部分については福祉部とも情報を共有して進めていきたい。 (内田会長) 他に意見はないか。 (委員) 意見なし (内田会長) 意見が無いようであれば、本日の審議についてまとめる。ここでお諮りした将来像の文言変更は決定、そのほか事前にいただいたご意見、この場でいただいたご意見を庁内で調整・修正いただき、また次回の審議会にて報告いただければと思う。 よろしいでしょうか。 (委員)
--	--

	異議なし 3. その他 (事務局) 本田委員からの提案資料の配布 次回の審議会日程について案内 4. 閉会
その他特記事項	(1) 会議の運営について 会議については原則公開とする。 (2) 会議録署名委員について 会議録への署名委員は丸野委員にお願いする。 (3) 次回の開催予定 日時:令和8年8月28日(金) 午前10時 場所:始良市役所本庁本館3階大会室